

# 「普通の大学生」のための TOEFL iBT 受験料 助成の試み

小田登志子

## 要旨

Title: TOEFL Fee Subsidy System for Non-English Majors: A Case Study at Tokyo Keizai University

TOEFL (Test of English as a Foreign Language) has received much attention in recent years. For average college students in Japan, however, TOEFL is too advanced to tackle. Therefore, in many universities it is not clear how TOEFL can be incorporated into their English education, especially when students are non-English majors. The purpose of this study is to report the result of the TOEFL fee subsidy system that was conducted at Tokyo Keizai University for three years from 2011-2013. Main findings are: 1) Only very small number of students who wish to study abroad were interested in taking TOEFL. Nevertheless, 2) the subsidy system helped the university to find potential applicants for exchange programs and better serve them.

キーワード：TOEFL 中堅大学 非英語専攻 受験料助成

## 1. はじめに

近年、大学教育のグローバル化が叫ばれる中で TOEFL (Test of English as Foreign Language) と呼ばれる英語テストが注目を浴びている。公務員試験、大学入学試験<sup>1)</sup>、卒業認定に利用するという案も取りざたされているため、もしそうなれば大学の英語カリキュラムに大きな影響を与えることになる。

しかし、議論が盛り上がる一方、TOEFL が日本の大学生人口の大きな部分を占めるいわゆる中堅以下の大学に通う大学生にとってどの程度有用かという点について、現場の実態はあまり理解されていないのが実情である。特に、学生自身がこのテストをどのように捉えているかという点については、資料が皆無である。

本稿では、中堅レベルの私立大学である東京経済大学（以下、「本学」と言及する）において、英語を専攻としない学生を対象にして3年間実施された「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の実施状況をまとめる。そして、中堅大学における TOEFL の役割について考える。

本稿の構成は次の通り。2章では TOEFL の概要と TOEFL が近年注目されている背景をまとめる。3章では、「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の実施状況を記す。4章に考察を述べる。本学の学生にとっては、TOEFL は内容が高度であり、留学を目的としてごく少数の学生が受験するのに留まる傾向が見られた。しかし、この制度を導入したことにより、大学が学生の状況を把握しやすくなり、留学を希望する学生の支援につなげることができた。これらの結果から、中堅大学の場合は、メディアで取り沙汰されているような TOEFL の全学的な導入は適当でないものの、留学希望者に的を絞って支援するのが効果的であると思われる。これらの結論は平凡であるものの、具体的な事例を通して確認することができた事が重要である。

## 2. TOEFL とは

この章では、TOEFL iBT について紹介するとともに、近年 TOEFL が話題になった背景をまとめる。TOEFL が注目されている大きな理由としては、TOEFL iBT が世界中で利用されており、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的にテストする内容であることが挙げられる。

### 2.1 TOEFL の概要

TOEFL は「トフル」「トーフル」などと読み、Test of English as a Foreign Language（外国語としての英語テスト）という意味である。米国非営利教育団体である Educational Testing Service（ETS）により1964年に開発された。英語を母国語としない人々の英語コミュニケーション能力を測るテストであり、非英語母語話者がアメリカを中心とする英語圏の大学へ入学を希望する際、TOEFL のスコアの提出を求められるのが普通である。

TOEFL が注目される理由の一つは、世界中でこのテストが利用されているためである。TOEFL が開発された1960年代以降、270万人以上の受験者、9,000以上の世界中の教育機関において活用されている<sup>2)</sup>。この点が、主に日本国内でしか認知されていない英検や、日本・韓国などアジアに受験者が集中する TOEIC とは大きく異なる。数ある英語テストの中でもイギリスを中心として用いられている IELTS（アイエルツ：International English Language Testing System）と並ぶグローバルスタンダードの一つであると言える。

TOEFL の内容は今までに何度か変更されてきた。1964年開始当初は PBT（Paper Based Test）と呼ぶマークシート方式のテストであり、リスニング・リーディングの2つの技

能のみが必須であり、ライティングは希望者のみが選択していた。次に登場したのがCBT (Computer Based Test) である。コンピュータ上で問題が提示され、解答もコンピュータ上で行う形式である。日本では2000年から導入された。テスト内容は従来のリーディングとリスニングに加えてライティングも必須となった。現在はiBT (Internet Based Test) と呼ばれる形式になり、CBTと同じくコンピュータを用いて行われる。iBTではスピーキングもテスト項目に加わり、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4技能を総合的にテストする内容になった。スピーキングテストでは、受験者はコンピュータの指示に従ってマイクロフォンに向かって話す<sup>3)</sup>。日本では2006年からTOEFL iBTが採用されている。TOEFL iBTのテスト所要時間はおよそ4時間30分であり、2時間を要するTOEICの倍以上である。

TOEFL iBTは個人が申し込んで、指定された会場で受験する。大学等が申し込む団体受験用のTOEFL ITPテストもあるが、リスニング・リーディングの2技能のみのテストとなっている。TOEFL ITPは一部の大学ではクラス分けや派遣留学生の選抜試験などに活用されている。

TOEFLはあくまでも大学での学習に必要な英語力があるかどうかをテストするのが目的であるため、テストの内容は歴史・文化・物理・生物・哲学・言語など、広い分野から出題される。同時に大学生活を念頭においた日常会話などからも出題がある。

## 2.2 なぜTOEFLが注目されているのか

2013年はTOEFLに関する報道が多い年であった。いくつかの報道を振り返りながら、議論の動向をまとめたい。近年のグローバル化の中で、国際的に活躍できる人材の輩出が急務とされていることは周知の事実だが、問題はこのような時代の要請に合った英語テストが存在しないことである。とくにスピーキングを含んだ適当なテストが無いのが問題視されている。

1963年に始まった英検は長らく日本の英語教育の現場で支持を得てきており、3級以上は面接方式によるスピーキングテストもある。しかし、「各級への合否のみが成績として認知されるので実力差が把握しにくい」「現在の日常会話では使わないような語句がある」との声がある<sup>4)</sup>。また、日本以外ではほとんど認知されていない。TOEICはリスニング・リーディングの測定のみで、注目されるスピーキングテストが含まれていない<sup>5)</sup>。そこでスピーキングを含むTOEFL iBTが脚光を浴びることになった。

近年、メディアでTOEFLが取り上げられるようになった直接の理由は大きく2つ挙げられる。一つは、文部科学省が掲げる「グローバル人材の育成」のキーワードのもと、もっと多くの学生を海外へ派遣しようという機運が高まっていることである<sup>6)</sup>。もう一つは、自民党の教育再生実行本部がTOEFLの活用を提言したことである。2013年3月に、同本部は

## 「普通の大学生」のための TOEFL iBT 受験料助成の試み

グローバル人材育成に向けた提言案を協議し、大学入試に TOEFL を導入する案を示したが、全大学の入試に利用することに異論が続出した<sup>7)</sup>。その後同本部は安倍晋三首相と会談し、国公立大学の受験資格や卒業要件として TOEFL で一定以上の成績を収めることを求める案を示し、首相はその一部を成長戦略に盛り込む考えを示した<sup>8)</sup>。そして政府は 2015 年度の国家公務員試験・総合職試験から、TOEFL を使用する方針を決めた<sup>9)</sup>。上記の自民党による提言は国公立大学が主に議論の中心になっているが、国公立大学から私立大学にも範囲を広げてゆきたい意向も示されている。

しかし、このように世論が盛り上がっているからと言って、学生に TOEFL をどんどん受験させれば良いかというと、話はそれほど単純ではない。海外への学生の派遣については、多くの大学がもっと留学生を送り出したいと考え、TOEFL を含めた対策を行っている。しかし中堅大学の場合は、正規留学の基準を満たす TOEFL のスコアを獲得できる学生はそれほどいないのが悩みの種である<sup>10)</sup>。自民党による TOEFL 活用案については、TOEFL は日本人には難しすぎ、かえって逆効果だという批判が上がっている<sup>11)</sup>。これに対して TOEFL を運営する ETS は「TOEFL は日本の学生や教員が世界標準の英語力を達成する手助けになる」、「テストの難易度を下げるのは解決策にならない」と反論しているものの<sup>12)</sup>、少数意見であることは否めない。代案として、TOEFL iBT をそのまま利用せず、「日本版 TOEFL」のようなものを開発する動きもある<sup>13)</sup>。

### 3. 実践記録：「普通の大学生」が TOEFL iBT を受験するとどうなるか

TOEFL iBT を日本の大学の英語教育でどのように活用するか議論する際に問題になるのは、TOEFL iBT に関して中堅以下の大学生の実態がよくわかっていないことである。2 章で述べたように、TOEFL iBT が普通の日本人にはかなり難しいということが指摘されており、ほとんどの英語教員はこの認識を共有していると思われる。しかしこの点に関しては、筆者の知る限り、現場の資料がほとんどない。様々な留学機関や出版社を通じて得られる情報は、TOEFL iBT でハイスコアを取得して海外の大学に進学したい「上位層」の実態であり、日本の大学生のほとんどを占める「普通の学生」の様子をうかがい知ることはできない。そこでこの章では、このような情報のギャップを埋めるべく、「普通の大学生」である東京経済大学の学生が実際に TOEFL を受験した記録を記したい。幸い本学には「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」と呼ばれる受験料を助成する制度がある。この制度の記録を基に、本学の学生の TOEFL スコアや TOEFL 受ける目的などについて分析したい。

#### 3.1 東京経済大学の学生とは

まず、「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の対象になる学生について簡単に述べる。東京

経済大学は東京国分寺にある中堅・中規模の社会科学系私立大学である。2013年度の学生数は6473名、うち学部生は6420名である。専攻は4学部あり、経済学部・経営学部・現代法学部・コミュニケーション学部である。英語は一般教養の必修科目として1年次に全員が履修する。2年次以降は希望者のみが選択科目の英語を履修する。コミュニケーション学部の一部には、英語を中心に履修する学生や英語教員を目指す学生もいるが、基本的に英語を専攻とする学生はいない。

全体的には学生の英語への関心はあまり高くない。経済学部・経営学部・現代法学部の学生については1年次にTOEIC IPを受験することが義務付けられているが、300点台の学生が多い。英語に関心が高い一部の学生に対しては、オーストラリアへの半年の留学がカリキュラムに組み込まれている「グローバルキャリアプログラム・オーストラリアコース」や、選抜制で2年次に履修する「アドバンスプログラム」などで対応している。しかし、これらを履修する学生は、前者は一学年10~20人、後者は毎年40人前後であり、全体から見ればごく少数である。なお、「グローバルキャリアプログラム」は留学が伴うものの、カスタマイズされたカリキュラムが用意されており、TOEFLやIELTSを受験する必要はない。

### 3.2 「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の目的と概要

東京経済大学国際交流課では「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」と呼ばれる制度を2011年度から設けている。主な目的は、海外の協定校への交換留学制度への応募者を増やすことである。日本経済が停滞していた間、日本人学生が海外へ留学しつづける「内向き志向」が問題視されてきたが、東京経済大学も例外ではない。協定校留学への志願者は毎年数名ほどしかなく、8名の英語圏への留学枠がほとんど空いたままの状態が続いてきた。そこで本学国際交流課を中心に、このような状況を改善することが課題として挙げられてきた。

協定校留学への応募者が少ない理由の一つは、TOEFL/IELTSのスコアの提出を応募の条件としているからである。事実、応募の際にTOEFL/IELTSのスコアを要求しない「友好校休学留学」という制度には、毎年3名の枠を上回る応募者が集まっている。TOEFL/IELTSは本学の学生にとってはなじみがないだけでなく、日本で受験した場合は、TOEFLは225米ドル、IELTSは24,675円と高額なため、学生が受験を躊躇する傾向がある<sup>14)</sup>。

そこで、TOEFL/IELTSの受験料を大学が補助することにより、協定校留学への応募を後押ししようというのが「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の目的である。概要を簡単にまとめる。

#### (1) 「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」概要

- a. TOEFL/IELTSのスコアを申請書とともに提出した場合、点数にかかわらず、一件の申請につき一律に2万円を支給する<sup>15)</sup>。

「普通の大学生」のための TOEFL iBT 受験料助成の試み

- b. 対象者は東京経済大学学部学生に限る。(聴講生・科目履修生等の非正規生を除く。)
- c. 一人の学生が在学中に何回応募しても良い。

現在の助成金の金額 2 万円では、TOEFL と IELTS の受験料の全額をカバーすることはできないが、受験料のおおよそを賄う金額となっている。

この制度の周知に当たっては、「TKU ポータル」と呼ばれる学内のシステムを利用して学部生にお知らせを配信するなどの方法が取られた。しかし、筆者が見聞きした範囲では、学習センターに常駐する「英語学習アドバイザー」と呼ばれる英語指導員に留学に関する相談をした際に、制度を紹介されて知ったというケースが多いようである。

### 3.3 受験料助成申請数・助成者数

運用を開始した 2011 年度から 2013 年度の 3 年間において、毎年おおよそ 20 件弱の申請があった。これは、毎年のべ人数で 500 名近い学生が自主的に受験する学内の TOEIC IP とは大きな差がある。申請されたケースのほとんどは TOEFL 受験であり、IELTS 受験はごく一部である。応募可能な学部生全体の数に照らし合わせた「申請者数」の割合は 0.1% 前後に相当する。表 1 で各年において申請者数が申請数よりも少ないのは、一人の学生が複数回申請しているケースがあるためである。

(2) 表 1 TOEFL/IELTS 受験料助成申請数・申請者数の推移

年度	学部生数	申請数	申請者数 (学部生数に占める割合)
2011 年度	6,460 名	19 件	6 名 (0.09%)
2012 年度	6,459 名	14 件*	6 名 (0.09%)
2013 年度	6,420 名	19 件**	10 名 (0.15%)
		合計 52 件	合計 22 名***

\*うち IELTS 受験が 2 件。\*\*うち IELTS 受験が 2 件。

\*\*\* 1 名の学生が 2 年間にわたって申請しているため、3 年間での申請者の実際の頭数は 21 人。

なお、表 1 の注にあるように、3 年間の間、複数年にわたって申請をした学生はわずか 1 名であった。TOEIC のように、学生が在学中に自分の英語力の伸びを測る「レベルチェック」のために何度も受験するケースが多いのとは対照的である。

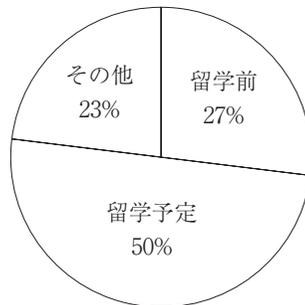
### 3.4 受験時期

3 年間に申請された全 52 件について、1) 受験時と留学時期の関係、2) どの学年次で受

験したか、の2点について考察する。結果としては、あくまでも留学を目標として、留学前に受験するケースが多いことがわかった。

まず、TOEFL/IELTSの受験時期と留学時期との関係を見てみよう。52件を3つに分類したのが表2である。「留学前」は、本稿を執筆した2014年1月時点ですでに留学を終えた学生が、その留学前に受けたTOEFL/IELTSの受験費助成を申請した場合を示す。「留学予定」は、まだ留学を果たしていないが、申請者に明確な留学希望があり、その準備としてTOEFL/IELTSを受験した場合が含まれる。「その他」は、申請者に留学の意思があるかどうか大学側が把握していない場合である。留学のためにTOEFL/IELTSを受験した可能性もあれば、留学以外の目的で受験した可能性もある。

(3) 表2 TOEFL/IELTS受験時期と留学時期の関係

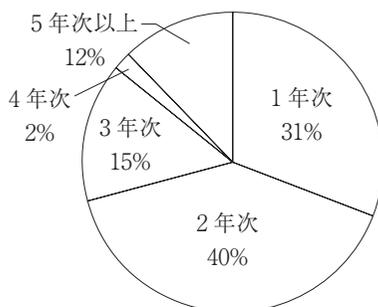


ここで注目すべきは、「留学前」が27%、「留学予定」が50%で、合計77%の申請が明らかに留学を目的としてTOEFL/IELTSを受験していることである。残りの23%についても、大学側が把握していないだけで、留学を念頭に置いている受験が含まれている可能性がある。明らかに留学を念頭に置いた受験が多いということは、留学以外の目的が少ないことを示唆している。留学以外の目的でTOEFL/IELTSを受験する理由としては、「レベルチェック」「検定試験を利用した単位の取得」<sup>16)</sup>「就職活動」などが考えられるが、本学の学生に関しては、こういった理由がTOEFL/IELTSの受験の目的にはなりにくいことが推察される。

また、表3と照らし合わせても、TOEFL/IELTS受験が留学を目的としているという推察はおおよそ的を得ていると思われる。表3を見ると、1, 2年次生時での受験が多いことがわかる。これは、学部在学中の留学を念頭においた受験者が多いことが理由である。

(4)

表3 TOEFL/IELTS 受験時の学年次



また、必ずしも本学の英語上位層が TOEFL を受験しているわけではない。この事実も英語の「レベルチェック」の需要が TOEFL にないという推察を支持する。TOEFL/IELTS 受験料助成申請者のうち、3.1 章で言及した本学の上位層を対象としたブルトッププログラムである「グローバルキャリアプログラム・オーストラリアコース」や「アドバンストコース」の履修生は1名のみであった。

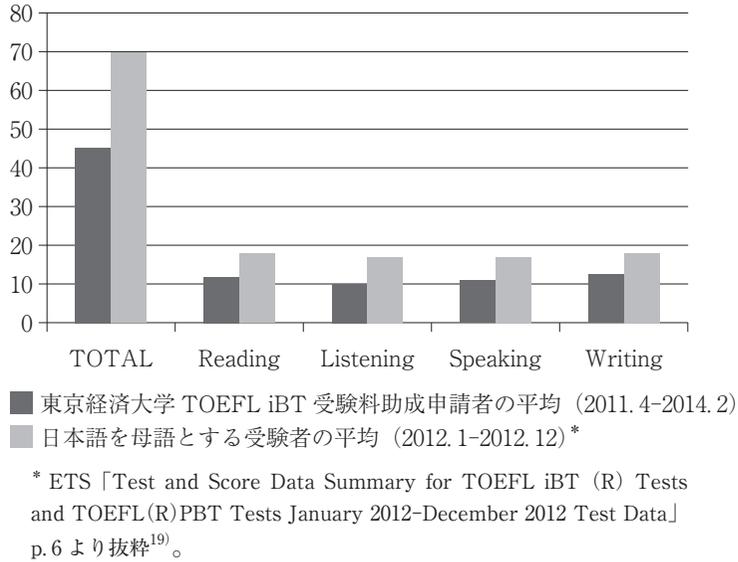
### 3.5 TOEFL のスコア

まず、TOEFL スコアの意味するところを簡単に説明したい。留学のためには、一般的な4年制大学で TOEFL iBT 60~80 点、大学院では 80~100 点のスコアが入学資格として要求されることが多い。最低点は 0 点、最高点は 120 点である<sup>17)</sup>。本学の協定校留学制度に応募したい場合は、最低 TOEFL iBT 40 点を要求している。もちろん 40 点では授業を受けることは難しく、たいいていの学生は1年間の留学期間のうち、最初の学期を語学学校で過ごし、その間に TOEFL のスコアを上げて、2学期目に授業を履修するケースが多い。

次に受験料助成の申請の際に提出されたスコアを見てみよう。申請数 52 件のうち、4 件は IELTS であるため、これを除いた 48 件の平均点は 44.8 点、各技能の平均点はリーディング 11.5 点、リスニング 10.1 点、スピーキング 10.8 点、ライティング 12.4 点である。これをグラフ化したものが表 4 である。参考までに、2012 年の日本語を母語とする受験者の平均点 (70 点) と各項目の平均点も合わせてご覧いただきたい。本学の受験料助成申請者のスコアは日本語母語話者の平均の 6.4 割程度であり、各技能のスコアもおおよそこれに比例している。またもう一つ参考までに言うと、2012 年度の全世界の受験者の平均スコアはおおよそ 80 点であり<sup>18)</sup>、本学の受験料助成申請者のスコアはこれと基準とすると 5.6 割である。このような点数と比較しても、本学の学生がかなり苦戦していることがうかがえる。

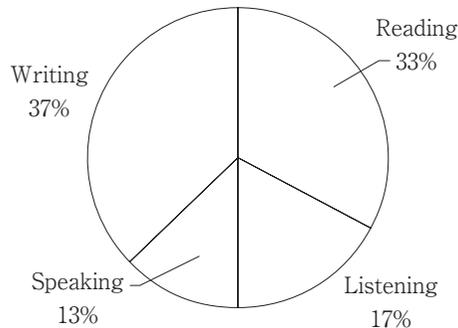
(5)

表4 TOEFL iBT スコアの平均

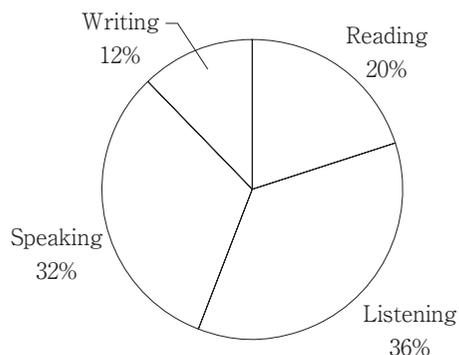


次に、どの技能が得意・苦手な学生が多いのか見てみたい。TOEFL iBT のスコア 48 件を提出した申請者は頭数で 21 名である。各申請者につきベストスコアを 1 件選び、その中の 4 技能の点数について調べたのが表 5 と表 6 である。表 5 では、4 技能の中で一番点数が高かった技能に沿って 21 名を 4 つに分類した。リーディング・ライティングが得点源になった申請者が多い。表 6 は反対に、4 技能の中で一番点数が低い技能に沿って 21 名を 4 つに分類した。リスニング・スピーキングの点数が低かった申請者が多い。

(6) 表5 受験料助成申請に提出された TOEFL iBT スコアにおいて一番点数が高い技能



(7) 表 6 受験料助成申請に提出された TOEFL iBT スコアにおいて一番点数が低い技能

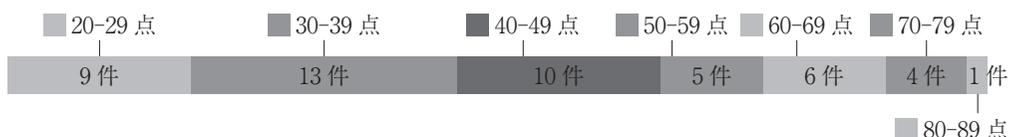


リーディングが得点源になっていることは、日本の読解中心の英語教育内容から考えると妥当な結果である。ライティングが得点源になっている理由ははっきりとはわからないものの、筆者が TOEFL 受験希望者に対してライティングの個人指導を行っていることが理由の一つかもしれない。TOEFL 関係者の間ではよく知られていることであるが、ライティングは練習の成果が短期間で点数に反映されやすいため、著者はライティング対策をまず行うことを学生に勧めている。スピーキングで得点できない学生が多いのは、スピーキングの訓練が足りていない日本の英語教育事情から考えると妥当であると言える。リスニングに足を引っ張られている学生が多い理由は、はっきりとはわからないものの、語彙数や長文を聴く訓練が圧倒的に足りていないことが原因の一部であることは間違いないだろう。

表 7 は提出された TOEFL iBT の得点の分布を表している。30 点台～40 点台を獲得しているケースが多い。40 点より高い得点を得ているケースが半分強の 26 件であるのは注目値する。これは申請者の頭数で数えると 11 名である。本学の協定校留学に必要なのが TOEFL iBT 40 点であり、留学枠が毎年余っていることはすでに 3.2 章で述べた。そこで、表 7 にある 40 点以上を獲得した 26 件 11 名について調査をした結果、主に経済的な理由により留学を断念した申請者が少なくとも 3 名いることがわかった。残念な事実である。参考までに 40 点を獲得している残りの 8 名の内訳は、協定校留学あるいはそれ以外の方法で 1 年以上の留学を実現した申請者が 6 名、卒業直前にスコアを提出したためその後の動向が不明な申請者が 2 名であった。

一方、20 点台のケースが 9 件もあるが、筆者の知る限りこのうちの少なくとも 4 件は TOEFL を初めて受験したケースであり、2 回目以降の受験でこの 4 件に該当する学生は全て 30 点以上のスコアを獲得した。したがって、20 点台のスコアは受験慣れしていないのが原因で、学生の英語力を反映しているとは言い難い。これは学生を指導する際に重要なポイントであり、3.6 章でもこの点について述べる。

(8) 表7 TOEFL iBT 受験料助成申請に提出されたスコアの得点分布



次に TOEIC との点数の関連を見てみよう。本学の協定校留学に応募するには TOEFL iBT 40 点が必要であることから「TOEIC で何点ぐらい取ったら TOEFL iBT 40 点が取れますか」という質問を受けるので、参考のために表 8 をご覧いただきたい。TOEFL iBT を受験した 48 件のうち、申請時における申請者の TOEIC の持ち点がわかる 9 件について、TOEFL iBT の点数が高い順にまとめた。なお、TOEIC の点はあくまでも「持ち点」であり、TOEFL iBT 受験時と TOEIC 受験時は大きく離れている可能性もあるので留意されたい。TOEFL iBT で 40 点以上を獲得している申請者（太字部分・1～6 番）は TOEIC でおおよそ 500 点以上を獲得していることがわかる。本学は英語に熱心な層は少数派であるとはいえ、TOEIC 500 点以上の学生は全く珍しくない。この点から考えても、経済的状況さえ整えば協定校留学への応募者を確保することは十分可能であろう。

(9) 表 8 TOEFL iBT 受験料助成申請に提出されたスコアと申請時の TOEIC の持ち点

申請者番号	TOEFL iBT 得点	TOEIC の持ち点
<b>1</b>	<b>83</b>	<b>955</b>
<b>2</b>	<b>77</b>	<b>915</b>
<b>3</b>	<b>54</b>	<b>705</b>
<b>4</b>	<b>46</b>	<b>630</b>
<b>5</b>	<b>45</b>	<b>750</b>
<b>6</b>	<b>43</b>	<b>505</b>
7	36	500
8	32	355
9	31	485

### 3.6 TOEFL iBT を受験する学生の様子

最後に、点数には表れにくい学生の様子について補足したい。TOEFL iBT 受験はいろいろな意味で本学の学生にとってハードルが高く、多くの困難が伴う。文章にするのをためらう内容もあるが、学生の実態を理解していただくためには必要であると判断した。

まず、受験申し込みの前に、ETS のウェブサイトで個人のアカウントを作る必要がある。学生の中にはこの作業ですでにつまずくケースがよくある。パスワードの作り方にルールがあり、このルールを満たせないと、いつまでたってもアカウントが作れない。学生のコンピューターリテラシーが年々上がるにつれ、この類のトラブルは減っているものの、まだ問

題が見受けられる。

次に、受験料の支払いが学生にとっては容易でない。クレジットカードの番号をサイトの画面に打ち込んで代金を口座から引き落とすのが主な方法だが、クレジットカードを持っていない学生が多い。保護者のクレジットカードを使用する場合、クレジットカードの番号をウェブサイトに打ち込むことに抵抗を感じる保護者もいまだに多い。

また、申し込んだと思ったのに、実際は申し込みが完了しておらず、当日会場に行ってみたら受験を断られたというケースも数件あった。

受験当日には身分証明書を提示する必要があるが、ここでも問題が見受けられる。パスポートがあれば大丈夫だが、海外への渡航経験がない学生はパスポートを持っていないことがほとんどである。その場合、指定された証明書の中から2点を提示することが義務付けられているが、運転免許証や住民基本台帳など、これまた学生が必ずしも手元に持っていないものが要求される。学生証は写真とサインがあれば有効だが、日本の大学の場合、学生証に写真はあってもサイン欄があることはまれではないだろうか。ちなみに本学の学生証にはサイン欄はない。

また、TOEFL iBT は受験に大変な時間と精神力を要する。TOEFL iBT の受験にはおおよそ4時間30分かかるため、学生が疲労困憊することは容易に想像できる。また、出題される内容は、本学の学生のように社会科学系の学生にはなじみがない内容も多い。そのため、科学分野の長文などは日本語で読んでも良く理解できないことがしばしばある。難易度も、英検などのように難易度を自分で選べるわけでもないので<sup>20)</sup>、学生はMBAを目指す受験者と同じ難易度のテストを受けるしかなく、「何を質問されているのかさえわからなかった」、「作文が2行しか書けなかった」、「スピーキングテストで何も言えなかった」、というケースは日常茶飯事である。受験後によくある感想は、「絶望して涙が出た」、「親の声が聞きたくて思わず電話してしまった」、「受験した日は疲れて他に何もできない」、「これと比べればTOEICが簡単に思える」、などである。その上、せっかく試験を受けたのに、最後に終了する際に誤ってスコアレポートをキャンセルするボタンをクリックしたために、スコアが得られなかったケースもあった。

このような状況であるため、初めてTOEFL iBTを受験する際などは、受験することに手いっぱい、自分の力を出し切ることは二の次になってしまうことが多い。3.5章をでも述べたように、初めてのTOEFL iBT受験では20点台が出ることもしばしばある。スピーキングやライティングが0点だったケースも見た。そこで筆者は「初めてTOEFL iBTを受ける時は、スコアが出れば上出来。点数は2回目から意識すればよい」とアドバイスすることになっている。この情報を学生に伝えることは非常に重要である。そうでないと、初めて受験したTOEFL iBTのスコアの低さにがっかりして2回目を受験しない学生が出ることは容易に想像がつく。

悲観的なことばかり書いたが、このような困難にもめげず、留学を目指して TOEFL 受験に挑む学生の姿を間近に見ている筆者としては、学生の頑張りに心から賞賛を送りたい。

#### 4. 考察

##### 4.1 あくまでも留学希望者のための TOEFL

これまでの議論から、本学の学生にとっては、TOEFL はあくまでも留学の手段であり、自分の英語力を測るためのテストとしては捉えていないことがわかる。この点に関して、明らかになった主な事実をまとめる。

- (10) a. 「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」に応募した学生は、対象学生の 0.1 % 前後に留まった。
- b. 留学を目的として、留学前に受験したケースがほとんどであった。
- c. 複数年にわたって継続して受験する学生はほとんどいなかった。
- d. 学内の英語上位層をターゲットにした英語プログラムの履修者と受験料助成申請者には重なりがほとんどなかった。
- e. 受験料助成申請者の TOEFL iBT の獲得点数の平均は、日本語を母語とする受験者の平均と比較するとおよそ 6.5 割程度であった。

2章で述べたように、関係者の間からは TOEFL iBT を一般的な大学生を対象とする入学試験や卒業認定などに用いるのは困難であるという指摘がされてきたが、そういった指摘が限定的ながら具体的なデータで裏付けられたと言える。

##### 4.2 状況把握および支援手段としての「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の活用

4.1 章に述べたように、本学の場合は TOEFL iBT 受験者が少なく、スコアもそれほど高くないことが判明した。しかし、受験料助成制度自体は有効な手段であることがわかってきた。今回「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」の実施を通して、この制度の有用性について現場の教員と職員が感じた点は以下の通りである。

- (11) a. TOEFL 受験者が少ないため、TOEFL 対策コースなどを設けるよりも少額かつ効率的に留学希望者を支援することができる。
- b. 助成制度を設けた事により、大学側が留学希望者の状況を把握・支援をしやすくなった。
- c. 留学希望者が少ない理由が英語力にあるのか、それ以外の理由（例：経済的な

理由) なのか、判断材料が得られる。

各点について補足する。(11a)にはこれまでの反省の意味も込められている。本学はこれまで選択英語科目や課外授業で TOEFL 対策のコースを開講したことがあったが、どれも希望者が集まらず閉講となった。希望者がもともと少ない場合、開講しても時間帯が合わない場合は受講できないので、このような場合は受験料助成の形で直接受験者を支援するほうが有効であろう。幸い本学の「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」は学生に好評で、「スコアの良し悪しに関わらず助成が受けられるので受験する気になる」、「何度でも申請できるのでとても助かる」、という声が繰り返し寄せられている。

(11b)も大学にとって重要である。「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」が発足する以前は、実際に留学に応募した学生の願書しか資料がなく、学内に留学を希望する学生がどのぐらいいるのかなど、全体の状況が把握できなかった。しかしこの制度が発足してからは、留学を志す学生がどの程度いるのかある程度把握できるようになり、状況が大幅に改善された。TOEFL のスコアだけでなく、3.6 章で述べたような学生の実態がわかるようになったため、留学応募前に的確なアドバイスを与えることもできるようになった。3.5 章と 3.6 章で、TOEFL iBT を初めて受験する場合はスコアが 20 点台のケースもあることを述べたが、このような結果に落ち込んで、学生が留学を断念するケースは容易に想像できる。しかし、受験料助成の申請を機に窓口を訪れば、それはよくあるケースだと話して留学をあきらめるのを思いとどまらせることもできる。そして、TOEFL iBT のスコアを上げるためには時間が必要なため、受験料助成の申請を機に、留学の潜在希望者を把握し、学内の英語関係者への橋渡しを早い段階で行うことが成功の秘訣である。

(11c)も貴重な収穫である。TOEFL iBT の点が基準に達していても留学に応募しない場合、経済的理由が大きいことが推測されるため、大学に予算措置を要求する根拠になる。本学の場合でも、協定校留学への希望者が少ない主な理由は、TOEFL iBT のスコアが足りない事と、経済的な理由の 2 つであろうと考えてきたが、以前はあくまでも現場の直感であり、具体的な根拠がなかった。本助成制度を実施したことにより、3.5 章で述べたような経済的な理由で留学を断念するケースを把握できるようになった。本学では、このような事実の積み重ねにより、留学を希望する学生に対する経済的支援が必要なが認められ、2014 年度から成績が優秀な学生に対して「国外留学生特別奨学金」が積み増しされることになった<sup>21)</sup>。

以上のように、TOEFL iBT は 4 技能を測るテストとして優れてはいるものの、中堅大学の英語専攻でない学生にとっては高度であり、全学的に導入できるものではない。しかし、留学を希望する学生には避けて通ることができないテストであり、大学で一定の取り組みをする価値があると言える。本学で試みた受験料の助成も一つの案である。そして受験料の助成制度を設けることにより大学にとっても様々なメリットがあることがわかった。本稿に

よって、TOEFLに関する本学の学生の状況が教員・職員と共有され、さらに本学と似たような中堅クラスの大学の参考になれば幸いである。

注

- 1) 国際教育交換協議会 TOEFL 事業部 (CIEE) (2012) によると、入学試験に TOEFL iBT のスコアを利用していると回答した大学は全国で 216 校ある。しかし、この制度を利用して入学した学生の人数は明らかではない。
- 2) TOEFL® テスト日本事務局より新年のご挨拶 <http://www.cieej.or.jp/toefl/webmagazine/ciee/1401/> (2014 年 2 月 3 日閲覧)
- 3) 同じように 4 技能をテストする英語テストとしてイギリスを中心に用いられている IELTS (アイエルツ: International English Language Testing System) があるが、表 1 からわかるように、本学の場合はほとんどの学生が TOEFL を受験するため、IELTS の内容の詳細は省略する。2 点特徴を挙げると、IELTS の場合はスピーキングのテストにおいて、試験官と面接をして測定が行われる。また、ライティングは紙に記入する。
- 4) 「英語試験話す力重視 TOEFL に脚光、新テスト続々 特性・キャリアで選択を」日本経済新聞電子版 2013/9/17 付
- 5) ETS は 2006 年から TOEIC SW と呼ばれるスピーキング・ライティングのテストを従来の TOEIC とは別テストとして提供している。しかし、2012 年の受験者数は約 11,100 名で、同年に約 700 万人が受験した TOEIC と比較すると受験者数は少ない。  
TOEIC SW 受験者数の推移については ETS の発表に基づく一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会によるプレスリリースを参照のこと。 [http://www.toeic.or.jp/library/toeic\\_data/sw/pdf/transition.pdf](http://www.toeic.or.jp/library/toeic_data/sw/pdf/transition.pdf) (2014 年 1 月 31 日閲覧) TOEIC 受験者数については ETS の発表に基づく一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会による翻訳資料を参照のこと。 <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/what.html> (2014 年 1 月 31 日閲覧)
- 6) 「グローバル人材育成の推進で 42 大学を採択 文科省」日本経済新聞電子版 2012/9/24 付  
「2020 年までに留学生倍増 国立大全体で初の数値目標」日本経済新聞電子版 2013/3/9 付
- 7) 「大学入試の TOEFL 活用、国公立大学中心に 自民」日本経済新聞電子版 2013/3/18 付
- 8) 「TOEFL を大学受験資格に 自民、首相に提言書」日本経済新聞電子版 2013/4/20 付  
自由民主党教育再生実行本部 (2013) 「成長戦略に資するグローバル人材育成部会提言 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai6/siryou5.pdf> (2014. 2. 24 閲覧)
- 9) 「三木谷氏推す TOEFL、公務員試験に (真相深層) 楽天の成功体験が後押し」日本経済新聞電子版 2013/11/1 付
- 10) TOEFL iBT のスコアが足りないために協定校への派遣留学生数が伸びないのはかなり一般的な現象である。日本国内での TOEFL 事業を請け負っている国際教育交換協議会 (CIEE) では、TOEFL iBT よりも日本人学生にとっては受験しやすいマークシート方式の TOEFL ITP のスコアを派遣先に提出することを推奨している。  
「協定校派遣者数を伸ばすために、大学は今、何をしなければならぬか～TOEFL ITP テストで派遣数を拡大している大学のヒミツとコツ～」 [http://www.cieej.or.jp/event/seminar/seminar\\_140319.html](http://www.cieej.or.jp/event/seminar/seminar_140319.html) (2014. 2. 24 閲覧)
- 11) 「英語が苦手な日本人に TOEFL 導入は逆効果だ」ニューズウィーク日本版 <http://www>.

「普通の大学生」のための TOEFL iBT 受験料助成の試み

newsweekjapan.jp/column/tokyoeie/2013/07/toefl.php (2014年1月31日閲覧)

- 12) 「「世界標準の英語力」達成を手助け 大学入試に TOEFL 活用 運営団体 ETS のデイビッド・ハント COO に聞く」日本経済新聞電子版 2013/11/10 付
- 13) TOEFL に似た 4 技能をテストとしては、日本英語検定協会が開発した TEAP (ティーブ)、ベネッセが開発した GTEC CBT (ジーテック CBT) がすでに大学受験のために採用され始めた。採用大学は 2014 年 1 月時点ではきわめて少数である。「入試英語 外部テスト活用」(毎日新聞 2014 年 2 月 17 日)  
韓国ではすでに「韓国型 TOEFL」が実施された実績がある。ただし、朴槿恵政権で「韓国型 TOEFL の試験対策で中高生の私費教育費(学習塾代など)負担が増える可能性があるため、韓国型 TOEFL は大学受験と連携させない」という方針になり、高校生向けの「韓国型 TOEFL」は 2013 年で廃止となった。成人向け試験は残る予定。  
「高校生受け「韓国型 TOEFL」4 回で廃止、36 億円が無駄に」朝鮮日報日本版オンライン 2014 年 1 月 16 日 付 [http://www.chosunonline.com/site/date/html\\_dir/2014/01/16/201411601013.html](http://www.chosunonline.com/site/date/html_dir/2014/01/16/201411601013.html)
- 14) 2013 年 1 月 30 日時点の受験料。受験料は受験国によって異なるとともに、改定されて値上げされることがよくある。
- 15) 申請用紙を参考資料 1 として参考資料欄に掲載した。
- 16) TOEFL 等の英語の外部試験の点数によって単位を出す大学は多い。本学でも TOEFL および TOEIC のスコアに応じて最大 8 単位を付与している。ただし、TOEFL でこの制度を利用する学生はゼロの年が多い。一方 TOEIC のスコアで単位を申請する学生は 2013 年度の場合は 80 名に達した。
- 17) ETS (2016) より。
- 18) 2012 年の全世界の TOEFL 受験者の男性平均は 80 点、女性の平均点は 80 点。ETS 「Test and Score Data Summary for TOEFL iBT(R) Tests and TOEFL(R)PBT Tests January 2012-December 2012 Test Data」[http://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227\\_unlweb.pdf](http://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf) (2014 年 2 月 1 日閲覧)
- 19) ETS 「Test and Score Data Summary for TOEFL iBT(R) Tests and TOEFL(R)PBT Tests January 2012-December 2012 Test Data」[http://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227\\_unlweb.pdf](http://www.ets.org/s/toefl/pdf/94227_unlweb.pdf) (2014 年 2 月 1 日閲覧)
- 20) CBT では受験者に合わせて出題内容が変わる方法が採用されていたが、現在の iBT ではそのような方法は採用されていない。
- 21) 2013 年度までは協定校留学に合格した者に、留学先の授業料を奨学金として付与してきた。2014 年度からは加えて成績が優秀な者に対し、一人につき上限 60 万円を生活費として支給することになった。

謝辞

本稿の執筆にあたり、東京経済大学国際交流課からデータの提供を受けた。また、本稿の題材となった「TOEFL/IELTS 受験料助成制度」を筆者と共に企画して下さった国際交流課と中村嗣郎教授、および企画を採用して下さった大学にお礼申し上げたい。また、国際交流課は忙しい業務の中、本制度の運営を全面的に行って下さったことを書き添えたい。さらに、本制度を学生に

周知するにあたり、重要な役割を果たした英語学習アドバイザーの阿部真由美氏・糸久裕恵氏・佐々木妙子氏にもこの場を借りて感謝の意を表したい。

なお、本文でも言及したように、本学の協定校留学希望者に対して「国外留学生特別奨学金」が積み増しされることが決定した。関係者の皆様に心からお礼申し上げたい。そして、より多くの本学の学生が留学に挑戦してくれることを願ってやまない。

参 考 文 献

国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 TOEFL 事業部 (2012) TOEFLiBT スコア利用実態調査  
 委報告書 2012 年版. 国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部  
 自由民主党教育再生実行本部 (2013) 「成長戦略に資するグローバル人材育部会提言」  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai6/siryou5.pdf> (2014. 2. 24 閲覧)  
 Educational Testing Service (ETS) (2006) *Propell Workshop for TOEFL iBT*. ETS.  
 Educational Testing Service (ETS) (2013) *Test and Score Data Summary for TOEFL iBT(R)  
 Tests and TOEFL(R)PBT Tests January 2012-December 2012 Test Data*. ETS.

参 考 資 料

資料 1. 2013 年度 TOEFL/IELTS 受験料助成制度の案内および申請書



**国際交流通信**

第196号

I・E・O  
Newsletter

2013年4月1日発行  
国際交流課

---

**2013年度TOEFL/IELTS受験料助成制度について**

同制度は本学学部学生のみさんがTOEFL (トフル) あるいはIELTS (アイエルツ) を受験し、そのスコアを大学に提出した場合、点数に関わらず補助金2万円が支給されるものです。英語圏への留学に必須となるTOEFL/IELTSを受験することにより、語学力を向上させ、海外留学などを通じて国際的に活躍できる人材を育成することを目的としています。該当する方は以下の要領にしたがって申請してください。

**申請書類：** ①TOEFL/IELTS受験料助成制度申請書 (裏面)  
②受験したTOEFL/IELTSのスコア

**申請資格：** TOEFL/IELTS試験の受験者でそのスコアを提出できる本学学部学生 (聴講生・科目等履修生等の非正規生を除く)

**申請期間：** 2013年4月1日 (月) ~ 2014年2月28日 (金) (随時申請)

**問合せ・申請先：** 国際交流課 (9:00~11:30, 12:45~17:00 月曜日から金曜日)

※2013年2月1日以降実施の試験が助成対象となります。  
 ※申請回数に上限はありません。  
 ※助成金支給方法等につきましてはポータルでお知らせします。  
 ※同制度による単位認定はありません。

- 表 -

「普通の大学生」のための TOEFL iBT 受験料助成の試み

2013年度TOEFL/IELTS受験料助成制度申請書

年 月 日

東京経済大学国際交流委員長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

携帯電話 \_\_\_\_\_

下記のとおり、TOEFL/IELTSを受験し、「TOEFL/IELTS受験料助成制度」に申請致します。

記

① 受験項目： TOEFL/IELTS (該当項目に○を付けてください。)

受 験 日： \_\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

スコア等： \_\_\_\_\_

② 成績表を添付します。  
(別紙)

※ 2013年2月1日以降実施の試験が助成対象となります。  
※ 申請回数に上限はありません。  
※ 助成金支給方法等につきましてはポータルでお知らせします。

\* TOEFLを受験したことのある方は、以下にTOEFLスコアも記入してください。  
(任意記入で助成制度には関係ありません。)

トータルスコア 点 (リスニングセクション 点、リーディングセクション 点)

【添 紙】

国際交流委員長 印 年 月 日

国際交流課長 印 年 月 日

- 裏 -